

授業概要

企業で製品を製造して販売したり、いろいろなサービスを提供するためにかかるものが「原価」です。この「原価」を計算する手続きを「原価計算」といいます。製品を製造するためには、材料費や人件費、電気代、水道代など多くの費用がかかります。そしてそうして出来た製品を販売するためには、広告宣伝費や交通費、通信費などの費用もかかります。原価計算では最終的に製品1単位、つまり自動車であれば自動車1台、テレビであればテレビ1台を製造して、販売するためにいくらかかるのかを計算していきます。本講義では、原価計算をはじめて学習する学生を対象に、講義中に練習問題を解きながら講義します。

授業計画

第 1 回	原価計算についてのガイダンス
第 2 回	原価計算の意義と目的、原価の分類
第 3 回	原価計算の手続きと種類
第 4 回	材料費の分類と計算原則
第 5 回	材料費の計算
第 6 回	労務費の分類と計算原則
第 7 回	労務費の計算
第 8 回	経費の計算
第 9 回	部門別計算の意義と目的、原価部門の設定と部門費の集計（第1次集計）
第 10 回	補助部門費の製造部門への配賦、製造部門費の製品への配賦と製品原価の計算、直接配賦法、階梯式配賦法
第 11 回	相互配賦法
第 12 回	個別原価計算① 個別原価計算とは
第 13 回	個別原価計算② 個別原価計算の方法
第 14 回	個別原価計算③ 勘定記入
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

「原価とは何か」「実際にかかった原価はどのように計算するのか」について、原価計算の基礎を学習し、日商簿記2級（工業簿記）レベルの実力のうち、費目別計算、部門別計算、個別原価計算の知識と計算を身につけ、問題点や課題を指摘することができる。

履修上の注意

講義中に、練習問題を解くので、電卓を忘れずに持参して下さい。

予習・復習

講義中のプリントを復習する。

評価方法

試験と授業に対する取り組みを総合的に判断して評価します。中間・学期末試験 70%、受講態度 30%

テキスト

- 教科書名：特になし（その都度、授業内で資料を配布します）
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年（ISBN）：